

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 20日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520540

研究課題名（和文） アイデンティティ形成に関する言語教育とその教師養成・研修プログラムの実践的研究

研究課題名（英文） The language education on identity formation and Practical study of teacher training programs

研究代表者

細川 英雄（HOSOKAWA HIDEO）

早稲田大学・日本語教育研究科・教授

研究者番号：80103604

研究成果の概要（和文）：

本研究の成果としては、アイデンティティ形成に関わる活動型言語教育の理念・方法論が、言語教育を中心とする教育界において認知されはじめた点である。とくに、言語教育で育成すべき力としてのアイデンティティとは何かをめぐる議論を中心として、評価や組織化の問題を含め、ますます多様化・複雑化する社会状況において、これからの日本語教育の課題を正面から探求する土壌が形成されはじめている。

研究成果の概要（英文）：

The philosophy and methodology of language teaching activities related to identity formation began to be recognized in education centered on language education as the results of this study. In particular, in the social context of diverse and increasingly complex soil to explore from the front the challenges of Japanese education in the future is beginning to be formed. There, around the debate over something, problem of organization and evaluation include the identity of the problem to be grown in language education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
22年度	900,000	270,000	1,170,000
23年度	700,000	210,000	910,000
24年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育（3204）

キーワード：アイデンティティ・活動型言語教育・実践研究・複言語複文化主義・市民性教育

1. 研究開始当初の背景

近年、多文化共生社会での言語教育のあり方がさまざまな場面で問われている現在、ポストモダンによる教育パラダイムの転換を受けて、言語・思考を含めた生活経験の総体として学習者をホリスティックに捉える立場から、学習者のアイデンティティ（以下、IDen）形成に関わろうとする活動型言語教育

が、90年代後半から一部で論じられるようになり、21世紀に入って急速に広まりつつある。

しかし、この学習者のIDenに積極的に関わる活動型言語教育は、いまだ日本語教育界には普及・一般化していない。その原因として、次のような問題と段階性が指摘できる。

(1) IDenの構築・更新の概念が抽象的で、わかりにくい。

(2) 理想的には理解できても、具体的な教育活動の方法のイメージがわからない。

(3) 自分なりにその教育実践を試みようとしているが、話し合う仲間もなく職場等で孤立している。

こうした現実状況を踏まえ、本研究は、来たるべき複言語複文化状況のための日本語教育として、IDen 形成に関わる活動型日本語教育実践モデルを提唱しようとするものである。自己評価ツールの拡大による、その教師の養成・研修プログラムを開発するとともに、言語教育から教師養成・研修までを一貫した言語教育観・評価システムの下に構築することを試み、WEB によるポートフォリオの実施によってその制度的な導入・確立をめざそうとするものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、来たるべき複言語複文化状況に対応する新しい日本語教師研修制度の導入と確立である。特に、多文化共生社会における外国人学習者の量的増加と質的変容に対応する日本語教育として、まず学習者の IDen 形成に関わる活動型日本語教育実践モデルを提唱し、それを実践する教師の養成・研修プログラムを開発するとともに、その制度的な導入をめざしたシステムの実施を図ろうとするものである。

3. 研究の方法

本研究は、以下 5 項目をスケジュールに従って研究を実施する。

(1) 学習者の IDen 形成に関わる言語教育とその背景に関する調査： 従来からの言語教育観研究の蓄積を、IDen 形成の観点からもう一度振り返り、国内外における言語教育教員養成とその教育理念との関係の調査を行う。

(2) 学習者の IDen 形成に関わる教育実践モデルの開発： すでに蓄積のある活動型言語教育活動に加え、研究代表者・分担者の連携・共同により学習者の IDen 形成に関わる教育実践モデルを新しく開発する。同時に、この教育実践モデルを記録・観察・分析する実習プロジェクトを立ち上げ、その記録観察誌を実習ポートフォリオ（試作）のデータベース（以下、DB）として蓄積する。

(3) 教育実践モデルの教員養成機関での試用： (2)を、実際に研究代表者・分担者の所属する教育研究機関のクラス活動およびその教育実習作業として試用する。これにより IDen 形成に関わる活動型日本語教育にシフトした実習ポートフォリオのフォーマットを DB 上に完成させる。

(4) 教育実践モデルの実習ポートフォリオの公開： (3)の成果をインターネット上に公開し、その内容に関して関係者・参加者とのやりとりをネット上で行う。同時に、小規

模研究会を継続的に言い、その成果の質的議論を行う。

(5) 成果の公開・共有： 上記のネット上の議論に加えて、最終的には、国際シンポジウムおよび一般出版物によって世に問う。今回の教員養成プログラム自体、基本的に生涯をかけて行うための枠組み作りであり、本来、長期間の継続的研究が必要であるが、限られた期間として研究の実効をあげるため、あえて「活動型日本語教育による教員養成ポートフォリオ」の開発に焦点化し、さらにその制度への導入をめざした具体的ツールおよびプログラムを開発する。

4. 研究成果

本研究の成果としては、IDen 形成に関わる活動型言語教育の理念・方法論が、言語教育を中心とする教育界において認知されはじめた点である。

(1) 言語教育の教員養成・研修において、IDen に関わる言語教育観とその評価を制度的に導入・確立する端緒となった： 今後は、広く議論に参加した国内外の実践者による教育現場（とくに国語教育・外国語教育）への波及効果が期待できる。本研究による教育実践モデルは、言語教育および教員養成一般への高い汎用性を備えているため、国語・日本語・外国語のための教育の連携・再編の契機となりうる。

(2) 世界的規模での連携による、コンソーシアム設立に向けたネットワーク構築が構想されつつある： DB では、様々な国での先行研究やインタビューを収集・報告・登録するだけでなく、それについての議論もできる開かれた討論環境空間を形成したため、大学・学校・地域・海外との教育研究上の諸機関が連携する体制につながった。

本研究によって、これまでの学術的かつ実践的な蓄積を生かし、理論と実践を統合した、新しい言語教育のかたちの創出をめざすことが可能となった。とくに、言語教育で育成すべき力としての IDen とは何かをめぐる議論を中心として、評価や組織化の問題を含め、ますます多様化・複雑化する社会状況において、これからの日本語教育がどう対応しなければならないかという課題を正面から探求する土壌が形成された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

(1) Hideo HOSOKAWA, Interculturalite et Dynamique du dialigue-pour une integration de la culture a la langue-, Enseignement du Japonais en

- France 5 32-53 2010年〈査読なし〉
- (2) 細川英雄, 日本語教育は日本語能力を育成するためにあるのか—能力育成から人材育成へ・言語教育とアイデンティティを考える立場から, 早稲田日本語教育学 9号 21-25 2010年〈査読あり〉
 - (3) 細川英雄, 相互文化性と対話のダイナミズム—ことばと文化の統合のために—, フランス日本語教育 5号 19-31 2011年〈査読なし〉
 - (4) 細川英雄, 実践研究は日本語教育に何をもたらすか, 早稲田日本語教育学 (7) 69-81 2010年〈査読あり〉

〔学会発表〕(計 10件)

- (1) 細川英雄, 言語教育はどのような言語活動主体を育成するのか, 第20回プリンストン大学日本語教育フォーラム, アメリカ・プリンストン大学 2013年5月11日, <http://www.youtube.com/watch?v=dZ1W1Tz3USs> 〈招待講演〉
- (2) 細川英雄, どのような言語教育によるどのような異文化間能力養成が可能なのか, 国際研究集会「真のグローバル人材育成を目指して—その理念と実践」, 京都大学, 2013年4月14日
- (3) Hideo Hosokawa, Médiation, interculturalité, et l'éducation de citoyenneté — la possibilité de la pédagogie pour l'activité langagière—, Le 19 mars 2013, France Sciences Po Amphithéâtre Goguel
- (4) 細川英雄, 言語教育におけるメディアエーションの意味, 第12回言語文化教育研究会, イタリア・ヴェネチア・カフオスカリ大学, 2013年3月8日
- (5) M. Byram&細川英雄, メディアエーション, 相互文化性, そして市民性教育—日本語教育における意義と可能性, 英国日本語教育学会セミナー, イギリス・国際交流基金ロンドン事務所 2013年2月23日, <http://www.jpj.org.uk/news.view.php?id=258>
- (6) 細川英雄, 教育実践における言語活動主体のあり方再検討, 第九回国際日本語教育・日本研究シンポジウム, 香港・香港城市大学 2012年11月25日〈招待講演〉
- (7) 細川英雄, 日本語教育学の専門性とは何か—早稲田大学大学院日本語教育研究科での議論を手がかりに—, 日本語教育学会国際大会 中国・天津外国語大学 2011年8月21日〈招待講演〉
- (8) 細川英雄, 牲川波都季, 金龍男, 他, ことばは教えられるか, 日本語教育学会秋季大会・神戸大学 2010年10月9日

- (9) 細川英雄, 「ことばの市民」になるために, 日本語教育学会国際大会 台湾・国立政治大学 2010年8月1日〈招待講演〉
- (10) 細川英雄, ことばの市民になるということ, 国際セミナー「言語教育はことばと文化を結ぶ」, インド・ネルー大学 2010年3月12日〈招待講演〉

〔図書〕(計 5件)

- (1) 細川英雄, 「ことばの市民」になる—言語文化教育学の思想と実践, ココ出版 2012年, p294
- (2) 細川英雄, 研究活動デザイン—出会いと対話は何を変えるか, 東京図書 2012年, p192
- (3) ラクシュミ, 細川英雄, PA ジョージ, 日本語教育: ことばと文化の掛け橋, Northern Book Centre Inde New Delhi 2012年, p250
- (4) 細川英雄, 言語教育とアイデンティティ—ことばの教育実践の可能性, 春風社 2011年, p263
- (5) 細川英雄, 西山教行, 複言語・複文化主義とは何か—ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ, くろしお出版 2010年, p192

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等
<http://www.gbki.org/>

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
細川 英雄 (hosokawa hideo)
研究者番号: 80103604

早稲田大学・大学院・日本語教育研究科・
教授

(2) 研究分担者

館岡 洋子 (tateoka yoko)

研究者番号：10338759

早稲田大学・大学院・日本語教育研究科・
教授

池上 摩希子 (ikegami makiko)

研究者番号：80409721

早稲田大学・大学院・日本語教育研究
科・教授

(3) 連携研究者

()

研究者番号：